

待合室で顔写真を見ていただいていますね。入れ歯を作ってくれているのは斉藤君、金属の詰め物や白い歯などを作ってくれるのは今井君です。二人とも実力派でとても忙しいのですが、開業時に無理を言ってお願ひしました。

先日、届いた技工物を見てみると、僕が要求したものと違うものがありました。もちろん、普通どおり作ってあったのですが、ご本人の要求で少し違う形態にお願いしていたのです。そこで診療の前日の夜、その技工士さんに「一度ご本人に聞いてみて、やっぱり気に入らないということがあればもう一度作ってもらっていい？」と連絡しました。すると、「今日中に作り直します」との返事。決して簡単



な技工物ではなく通常であれば一週間ほどかかるというのに。ちょっと不安に思っていました。翌日にはちゃんと要求どおりの技工物が届いていました。もちろんご本人も大満足。さすがプロフェッショナル！こんなプロと一緒に仕事ができるなんて僕たちも幸せです。

患者

僕は「患者」という言葉があまり好きではありません。何かすごく弱い存在に追いやるようで。「医師・患者関係」というとなぜか上下関係をイメージしてしまいます。

以前、僕の尊敬する歯科の先生が脳梗塞で倒れ入院しました。その後リハビリも進み退院された時、次のような話をされていました。「いいか

五島、パジャマは弱し、されど白衣は強し。患者になるとダメだなあ。」と。また、ある先生からは「患者の患は心に串が刺さっている状態。私たちの仕事はその串を抜いてあげること。」という言葉を覚えていただきました。

それにしても患者という言葉のイメージはあまりよくありません。いくら「さん」や「様」をつけたところであまり変わらない気がしませんか？
スタッフにこのよ

うな話をしたことはありませんが診療室で「患者」という言葉をあまり聞きません。きっと普通にやっつけていれば患者と思わなくてもいいのでしょう。だって皆さん、みんな同じ普通の人間ですものね。

